

10

パソコンとの連携

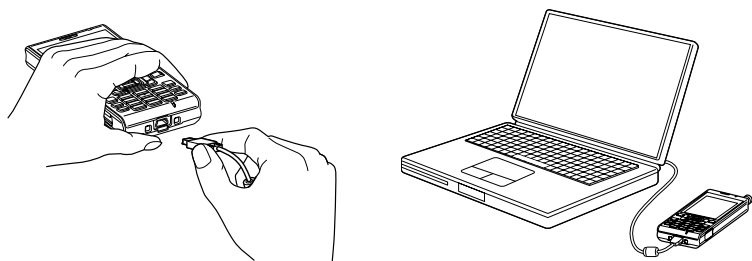
パソコンと接続する	10-2
データ通信を行う	10-3
Outlook と同期する (Intellisync)	10-20
パソコンから microSD カード内のデータを管理する (USB データストレージ)	10-36


パソコンと接続する

パソコンと接続する


USBケーブル（Mini-B対応）で、パソコンと本電話機を接続します。

- 1 パソコンを起動し、パソコンのUSBポートにUSBケーブルのコネクタを接続する
- 2 本電話機のUSB端子のカバーを外し、USBケーブルのコネクタ（Mini-B）をUSB端子にまっすぐ差し込む



確認音が鳴り、本電話機の画面に「」が点灯し、「データ通信ON」と表示されます。

お知らせ

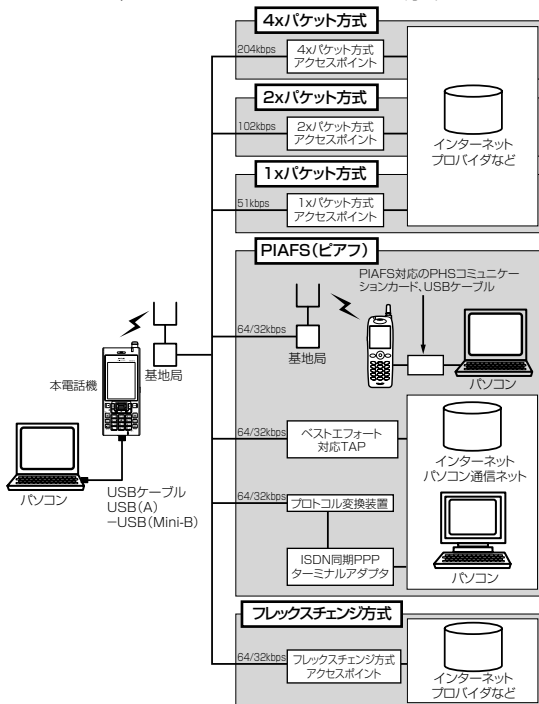
- 電池パックを外した状態で、本電話機をUSBケーブルに接続しないでください。
- USBケーブルを外すときは、接続と逆の順序で行ってください。
- 本電話機からUSBケーブルを抜くときは、差し込むときと同じようにUSB端子のカバーを押さえて、まっすぐに抜いてください。
- 本電話機よりUSBケーブルを外すと、「」が消灯し、「データ通信OFF」と表示されます。
- USBケーブルでパソコンと接続中に、パソコンから充電することもできます。ただし、パソコンの種類によっては、USBケーブル経由での充電ができないことがあります。「USBで充電する」(※13-6ページ)
- USB充電を「OFF」に設定してパソコンと接続した場合でも、本電話機の電池を消費します。この場合、データ通信を行わなくても待受時間が短くなる場合があります。本電話機の電源を切っただけでも同様に本電話機の電池を消費する場合があります。
- ご利用になるOSによっては、最初に接続してドライバのインストールを行ったUSBポート以外のUSBポートに接続した場合、再度ドライバのインストールや設定が必要となる場合があります。

データ通信を行う

データ通信について

利用できる通信方式

本電話機で利用できるデータ通信には、4xパケット方式、2xパケット方式、1xパケット方式、64kPIAFS（ベストエフォート）、32kPIAFS、フレックスチェンジ方式があります。



パソコンとの連携

データ通信を行う

■4xパケット方式（ヨンエックス）

ウィルコムが提供している最大通信速度204kbpsの通信方式です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

4xパケット方式は、1xパケット通信を4つ束ねることにより、さらにデータ通信速度を向上させています。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの4xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 2xパケット方式（ニエックス）

ウィルコムが提供している最大通信速度 102kbpsの通信方式です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

2xパケット方式は、1xパケット通信を2つに束ねることにより、さらにデータ通信速度を向上させています。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの2xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 1xパケット方式（イチエックス）

ウィルコムが提供している最大通信速度51kbpsの通信方式です。情報をパケット（小包）に分割して、パケット単位で情報をやりとりする方式です。

数分間程度電波が弱くなったり途切れたりしても、できるだけ回線を維持し、より信頼性の高い通信環境を実現します。

ご利用になるには、ウィルコムの1xパケット方式対応の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

■ 64kPIAFS方式（ベストエフォート）

ウィルコムが採用している最大通信速度64kbpsの通信方式です。

基地局の利用状況や電波の状況により、64kbpsと32kbpsの2つの通信速度をフレキシブルに選択し、つながりやすく切れにくい通信環境を実現します。

■ 32kPIAFS方式

PHSの通信標準規格で最大速度32kbpsの通信方式です。

PIAFS対応のターミナルアダプタ（TAP）やPHSを用いたアクセスポイントに接続することにより、32kbpsの高速データ通信が可能です。

■ フレックスチェンジ方式

ウィルコムが提供している最大通信速度64kbpsの通信方式です。通信中のデータ量に従い、「1xパケット方式」と「64kPIAFS（ベストエフォート方式）」を、自動的に切り替え、スムーズな通信環境を実現する通信方式です。

回線使用状況などにより64kPIAFS方式での通信を維持できない場合でも、パケット方式で通信を継続するので、再接続する必要はありません。

ご利用になるには、ウィルコムのフレックスチェンジ方式専用の料金コースにご契約いただき、専用のアクセスポイントに接続してください。

お知らせ

- パケット方式の速度表記は、PHS高度化通信規格（W-OAM）対応時の最大通信速度となります。
- ウィルコムのデータ通信に関するお問い合わせ（2007年2月現在）
本電話機から 局番なしの157（無料）
一般電話・公衆電話から 0120-921-157（無料、携帯電話・PHSからもかけられます）
受付時間（日・祝日も受付）：9:00～19:00

データ通信ソフトをインストールする

USBドライバのインストール

本電話機とパソコンをUSBケーブルで接続してデータ通信を行うには、あらかじめ、本電話機をモデムとして動かすためのドライバをパソコンにインストールする必要があります。

■本電話機の対応OSについて

本電話機と接続可能なパソコンの対応OSは以下のとおりです。ただし、すべてのパソコンについての動作を保障するものではありませんのであらかじめご了承ください。

▶ Windows

Windows XP Professional
Windows XP Home Edition
Windows 2000 Professional

▶ Macintosh

Mac OS X v10.1.5 ~ v10.4.1, v10.4.3 ~ v10.4.8
Mac OS 9 v9.2 ~ v9.2.2

ご注意

●以下の場合はサポート対象外となりますのであらかじめご了承ください。

- ・自作したパソコンをご使用の場合
- ・対応OSがプレインストールされていないパソコンをご使用の場合
- ・OSをアップグレードしたり、OSを入れ替えたパソコンをご使用の場合
- ・パソコンのハードウェアとOSとの相性により正常に動作しない場合
- ・パソコンの設定や環境によって正常に動作しない場合
- ・増設したUSB端子をお使いの場合
- ・USBハブなどを経由して接続している場合
- ・パソコンに本電話機以外のUSB機器が接続されている場合

ドライバのインストール方法は、お使いのパソコンのOSによって異なります。

- Windows XPの場合（※同じページ内です。）
- Windows 2000の場合（※10-7ページ）
- Mac OS Xの場合（※10-9ページ）
- Mac OS 9の場合（※10-10ページ）

WindowsはMicrosoft Corporationの、Macintosh、Mac OSはApple Computer, Inc.の登録商標です。

■Windows XPの場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れる

2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

3 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」（※10-2ページ）接続を行うと、パソコンのディスプレイに「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示され、インストールが開始されます。

4 「ソフトウェアを自動的にインストールする（推奨）」を選択し、[次へ]をクリックする



ドライバのインストールが開始されます。

5 インストールされたドライバが「WXJ USB Modem 11A010」であることを確認し、「完了」をクリックする



ドライバのインストールが終了します。

ご注意

- ドライバ名称の下6桁は、ソフトウェアの更新に合わせて変更されます。

▶ 以下の画面が表示されたとき
インストール中に、以下の警告画面が表示される場合があります。この場合、「続行」をクリックしてインストールを続けてください。



6 [スタート]メニューから、[設定] → [コントロールパネル]を選択し、[システム]をダブルクリックする



7 [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックする



8 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックし、「WXJ USB Modem 11A010」が表示されていることを確認する



9 「WXJ USB Modem 11A010」を右クリックし、「プロパティ」を選択する



10 [モデム] タブをクリックし、「ポートの最高速度」のプルダウンメニューから最も大きな値を選択し、[OK] をクリックする



以上で設定が完了します。

■Windows 2000の場合

1 パソコンと本電話機の電源を入れる

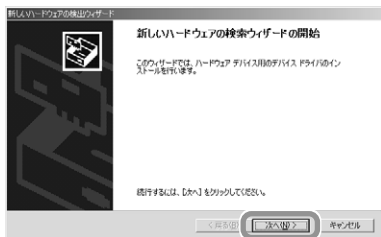
2 付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

3 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(※P.10-2ページ)

接続を行うと、パソコンのディスプレイに「新しいハードウェアの検出ウィザード」の画面が表示され、インストールが開始されます。

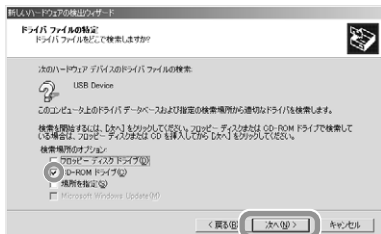
4 [次へ] をクリックする



5 「デバイスに最適なドライバを検索する(推奨)」を選択し、[次へ] をクリックする



6 「CD-ROMドライブ」を選択し、[次へ] をクリックする



- 7** インストールされたドライバが「WXJ USB Modem 11A010」であることを確認し、「完了」をクリックする



ドライバのインストールが終了します。

ご注意

- ドライバ名称の下6桁は、ソフトウェアの更新に合わせて変更されます。

▶ 以下の画面が表示されたとき

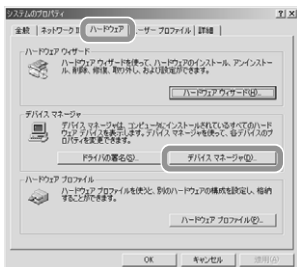
インストール中に、以下の警告画面が表示されることがあります。この場合、[[はい]]をクリックしてインストールを続けてください。



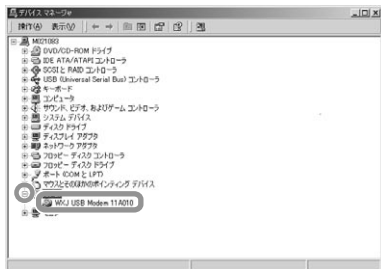
- 8** [スタート] メニューから、[設定] → [コントロールパネル] を選択し、[システム] をダブルクリックする



- 9** [ハードウェア] タブをクリックし、[デバイスマネージャ] をクリックする



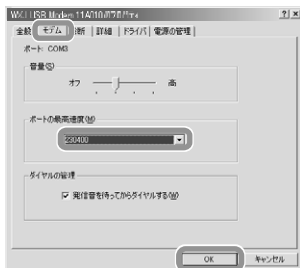
- 10** 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックし、「WXJ USB Modem 11A010」が表示されていることを確認する



- 11 「WXJ USB Modem 11A010」を右クリックし、【プロパティ】を選択する



- 12 [モデム] タブをクリックし、「ポートの最高速度」のプルダウンメニューから最も大きな値を選択し、[OK] をクリックする



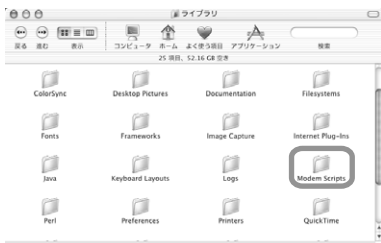
以上で設定が完了します。

■Mac OS X の場合

- 1 パソコンと本電話機の電源を入れ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる
- 2 USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(※P.10-2ページ)

- 3 付属のCD-ROMの中にある「WXJ USB Modem 11A010」を、「ライブラリ」の「Modem Scripts」フォルダへコピーする



ご使用のシステムのバージョンによっては、「ライブラリ」は「Library」と表示されています。

- 4 「システム環境設定」から「ネットワーク」を選択し、「表示」プルダウンメニューから「USBモデム」を選択する

「表示」プルダウンメニューに「USBモデムX」(Xは任意の数字)と表示されることもあります。



- 5** [モデム] タブをクリックし、「モデム」のプルダウンメニューから「WXJ USB Modem 11A010」を選択し、[今すぐ適用] をクリックする



ご注意

- ドライバ名称の下6桁は、ソフトウェアの更新に合わせて変更されます。

以上で本電話機をモデムとして動かすための準備が終了します。

Mac OS 9の場合

- 1** パソコンと本電話機の電源を入れ、付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブに入れる

- 2** USBケーブルで、パソコンと本電話機を接続する

「パソコンと接続する」(参照 10-2ページ)

- 3** 付属のCD-ROMの中にある「WXJ USB Modem 11A010」を、「システムフォルダ」の「機能拡張」フォルダ内の「Modem Scripts」フォルダへコピーする



- 4** 「システムフォルダ」内の「コントロールパネル」の「モデム」をダブルクリックする



5 「経由先」のプルダウンメニューから「USB Modem 1」を、「モデム」のプルダウンメニューから「WXJ USB Modem 11A010」を選択する

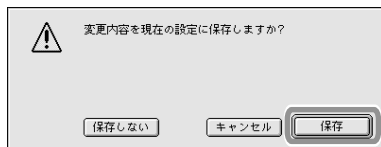
「経由先」プルダウンメニューに「USB Modem X」（Xは任意の数字）と表示されることもあります。



ご注意

- ドライバ名称の下6桁は、ソフトウェアの更新に合わせて変更されます。

6 「モデム」ウィンドウを閉じ、[保存] をクリックする



以上で本電話機をモデムとして動かすための準備が終了します。

■ Windows でご利用になる場合のご注意

- インストール時に割り当てられる COM ポート番号が、パソコンによっては内蔵モデムや赤外線ポート (IrDA) の COM ポート番号と重なってしまう場合があります。重なった場合、正常に動作しなくなりますので、内蔵ポート、赤外線ポート (IrDA) をデバイスマネージャ上で「使用不可」にするか、モデムポート先を変更してからお使いください。
- WXJ USB Modem 11A010 はモデムとしてインストールされますが、すでに複数のモデムがインストール済みのパソコンにインストールした場合、正常に動作しなくなることがあります。このような場合は、すでにインストール済みの各種モデムを、「モデムのプロパティ」から削除してください。
- Windows XP 搭載のパソコンを本電話機と接続するとき、パソコンがモデムとして認識するのにしばらく時間がかかります。そのため、本電話機との接続の直後に通信を開始しようとすると正常に動作しませんのでご注意ください。本電話機と接続後、10 秒ほど時間を置いてから使用してください。
- Windows XP、Windows 2000 でお使いの場合、ダイヤルアップ接続やターミナルソフトなどにより COM ポートをオープンした状態で USB ケーブルを抜くと、パソコンの動作が不安定になることがあります。USB ケーブルを抜いたあとは、10 秒ほど時間を置いてから再度 USB ケーブルを差し込むようにしてください。

■ Macintosh でご利用になる場合のご注意

- Mac OS でお使いの場合、リモートアクセスやターミナルソフトなどにより COM ポートをオープンした状態で USB ケーブルを抜くと、システムの状態が不安定になります。USB ケーブルは、必ず Macintosh 側で COM ポートをクローズ (接続断) したあとに抜いてください。また、このような操作を行った場合には、Macintosh を再起動してください。

■ サポート Web サイトのお知らせ

- インストールがうまくいかない場合には、サポート Web サイトの Q&A もご覧ください。サポート Web サイト <http://www.jrcphs.jp/>
このサイトへはパソコンからアクセスしてください。

■ USB ドライバが誤認識された場合の対処法 (Windows XP および Windows 2000)

- インストールを中断し、USB ドライバが誤認識されてしまった場合は、デバイスマネージャから誤認識された「USB Device」を削除し、再度 USB ドライバのインストールを行います。(下記の画面は Windows XP の場合の例ですが、操作は Windows 2000 の場合も同様です。)

1 パソコンと本電話機の電源を入れ、USB ケーブルで接続する

2 デバイスマネージャを表示させる

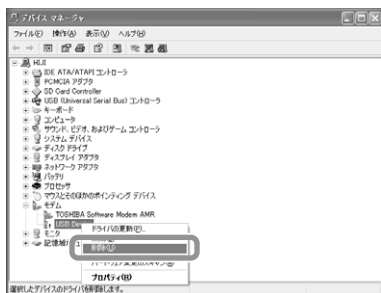
(Windows XP の場合：☞ 10-6 ページの手順 6～7、Windows 2000 の場合：☞ 10-8 ページの手順 8～9)

3 「モデム」アイコンの先頭の「+」をクリックする

先頭に「！」の付いた「USB Device」が表示されています。



4 「USB Device」を右クリックし、「削除」を選択する



5 [OK] をクリックする



6 「USB Device」が消えていることを確認する



以上の操作のあと、再度 USB ドライバのインストールを行ってください。

通信方式を設定する

64kPIAFSの選択

64kPIAFS通信の方式を、ベストエフォート型とギャランティー型から選択します。

1 待ち受け画面で を押す

2 (データ通信方式) を押す

3 (ベストエフォート型) または (ギャランティー型) を押す

▶ (ベストエフォート型) を押すと

基地局の利用状況や電波の状況により、64kbpsと32kbpsの2つの通信速度がフレキシブルに選択されます。ウィルコムと公衆サービスの契約をされている場合は、「ベストエフォート型」を選択してください。

▶ (ギャランティー型) を押すと

通信速度を64kbps固定とします。64kbpsの通信速度が確保できないときには通信を切断します。

お知らせ

- お買い上げ時には、データ通信方式は「ベストエフォート型」に設定されています。他の事業者と公衆サービスの契約をされている場合は、各事業者にご確認のうえ、必要に応じて「ギャランティー型」に設定してください。ウィルコムと契約されている場合は「ギャランティー型」はご利用になれません。
- オフィスモードで使用する場合は、オフィスシステム (PBX) が対応している方式を設定してください。「オフィスモードで使う」(※14-4ページ)
- 本機能を「ベストエフォート型」に設定している場合でも、アクセスポイントの電話番号の末尾に「##41」が入力されているときは、ギャランティー型で発信します。また「ギャランティー型」に設定している場合、アクセスポイントの電話番号の末尾に「##4」が入力されているときは発信できません。「通信方式の設定」(※10-14ページ)
- 64kギャランティー型での発信の際、フォールバック機能 (64kbpsで通信ができない場合に自動的に32kbpsに通信速度を落としてリダイヤルする機能) には対応していません。

通信方式の設定

本電話機での通信方式の設定とは別にパソコン側で、どのアクセスポイントに接続するかによって、通信ソフトの設定を変える必要があります。

▶ パソコンの通信ソフトの設定を変えるには

パソコンなどでアクセスポイントの電話番号を入力するとき、続けて下表の番号を入力します。

アクセスポイント	電話番号に続けて
4xパケット方式※、2xパケット方式※	##64
1xパケット方式※	##61
64kPIAFS (ベストエフォート)	##4
64kPIAFS (ギャランティー)	##41
32kPIAFS	##3
フレックスチェンジ方式※	##7

発信者番号通知の設定に関係なく本電話機の電話番号がアクセスポイントに通知されますので、あらかじめご了承ください。「発信者番号通知を設定する (番号通知設定)」(※ 11-2ページ)

※ 4xパケット方式、2xパケット方式、1xパケット方式、フレックスチェンジ方式対応の料金コースをご利用のお客様は、32kPIAFS、64kPIAFSで通信を行う場合、パケットごとの課金ではなく時間で課金されるため、別途料金が発生しますのでご注意ください。

お知らせ

- データ通信を行うための詳しい設定や操作は、お買い求めのパソコン、PDA、通信ソフトの取扱説明書をご覧ください。
- 64kPIAFS方式をご利用になる場合は、「64kPIAFSの選択」(※ 10-13ページ) もご覧ください。

データ通信で発信する

1 USBケーブルで接続したパソコンでデータ通信の発信操作をする

通信方式の種別がアイコンと文字で表示され、発信先の電話番号が点滅します。

●画面に表示される文字とアイコン

通信方式	表示文字	アイコン
4x パケット方式、2x パケット方式	データ通信 パケット	
1x パケット方式	データ通信 パケット	
64kPIAFS (ベストエフォート)	データ通信 64kPIAFS BE	
64kPIAFS (ギャランティー)	データ通信 64kPIAFS GR	
32kPIAFS	データ通信 32kPIAFS	
フレックスチェンジ方式	データ通信 フレックスチェンジ	

アクセスポイントに接続すると、画面に通信時間が表示されます。

2 パソコンから切断操作をする

ご注意

- 本電話機をパソコンと接続してパソコンでデータ通信を行っているときに、電話機単体でのインターネット接続はできません。
- 電話機単体でインターネット接続やEメールの送受信を行っているときは、本電話機をパソコンと接続してのパソコンでのデータ通信はできません。
- データ通信で発信するときに、料金分計サービスを利用することもできます。「料金分計サービスを利用する (有料)」(P.13-95ページ)

「エラー 692:」が表示される場合 (Windows XP)

ダイヤルアップ接続時に「エラー 692:」のメッセージが表示され、接続できない場合は、インストールされたUSBドライバの、モデムに対するハードウェア設定を変更します。

- 1 パソコンと本電話機の電源を入れ、USBケーブルで接続する
- 2 [スタート]メニューから[接続] → [すべての接続の表示]を選択し、利用するダイヤルアップ接続のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選択する



- 3 [構成] をクリックする



- 4 「ハードウェアの機能」の項目にチェックが入っているかどうかを確認し、[OK] をクリックする

チェックが入っていない場合は、以下の画面のようにすべてにチェックを入れてください。



- 5 [OK] をクリックする



ATコマンドで音声発信する

本電話機をパソコンと接続しているときに、パソコン側の通信ソフトでATコマンドを使用して音声発信を行うことができます。

1 待ち受け画面で、パソコン側の通信ソフトから「ATD○○○○○○○○##0」と入力する

例えば03-1234-5678に発信する場合は「ATD0312345678##0」と入力します。本電話機に「発信中」と表示され、電話がかかります。


2 通話する

相手が電話に出ると、通信ソフトには「CONNECT」と表示されます。USBケーブルを接続したままでもUSBケーブルを抜いても、通話することができます。

3 通話を終了するときは を押す

通話が終了し、「通話終了」と表示されます。

お知らせ

- パソコンと接続しているときに音声着信があっても、ATAコマンドで応答することはできません。電話を受けるには  を押してください。

パソコン接続中に着信する

本電話機をパソコンと接続しているときに、データ着信があった場合、着信操作はパソコン側で行います。



1 着信音が鳴る

通信方式の種類がアイコンと文字で表示され、発信元の電話番号が点滅します。「データ通信で発信する」(※ 10-15ページ)
公衆モードで設定した着信音が鳴ります。「着信音を設定する」(※ 7-62ページ)
着信ランプが点滅します。

2 パソコン側でデータ着信の操作を行う

通信が開始されると、画面に通信時間が表示されます。

お知らせ

- 本電話機が「ダイヤルロック」・「リモートロック」されているとき、パソコン側からの発信および通信モードの切り替えはできません。ただし、「ダイヤルロック」されているときは、データ着信は受けられます。「ダイヤルをロックする(Sダイヤルロック)」(※ 11-14ページ)
- USBケーブル未接続のときにデータ着信があった場合、不在着信となり待ち受け画面に  が表示され、リマインダーが点灯します。
- 「安全運転モード」が設定されているときにデータ着信があった場合、不在着信となり待ち受け画面に  が表示され、リマインダーが点灯します。

データ通信中の着信を設定する

データ通信時に、電話がかかってきたときに、それを受けるかどうかを設定します。PIAFS通信（音声通話も含む）とパケット通信のそれぞれについて設定することができます。

PIAFS 通信中の着信を設定する（音声、PIAFS 通信中着信）

PIAFS方式での通信中に電話がかかってきた場合についての設定です。設定方法は、「通話中の着信を設定する」（[#7-10ページ](#)）と同じです。

お知らせ


- お買い上げ時には、「ON」に設定されています（通信中の着信を受ける）。
- 「音声、PIAFS通信中着信」が「ON」の場合、音声着信、ライトメール受信、Eメールのバックグラウンド受信、データ通信着信が可能です。ただし、通信のタイミングによっては着信できない場合もあります。


パケット通信中の着信を設定する（パケット通信中着信）

パケット方式での通信中に電話がかかってきた場合についての設定です。

1 待ち受け画面で    を押す

2 （通信中着信）を押す

3 （パケット通信中着信）を押す

4 （ON）または （OFF）を押す

パケット通信中の着信が設定され、「設定しました」と表示されます。

▶ （ON）を押すと

パケット通信時の着信を受け付けます。

▶ （OFF）を押すと

パケット通信時の着信を受け付けません。

お知らせ

- お買い上げ時には、「ON」に設定されています。
- 「パケット通信中着信」が「ON」の場合、音声着信、ライトメール受信、Eメールのバックグラウンド受信、データ通信着信が可能です。ただし、通信のタイミングによっては着信できない場合もあります。

データ通信時に着信があった場合の動作

「音声、PIAFS 通信中着信」や「パケット通信中着信」を「ON」に設定している場合、本電話機をパソコンと接続してパソコンでデータ通信を行っているときに着信があると、画面に着信画像が表示されません。

お知らせ

- データ通信の種類や状態によって着信できないことがあります。

Outlookと同期する (Intellisync)

パソコン上で動作するMicrosoft Outlook (以下、「Outlook」) の「予定表」および「連絡先」のデータと、本電話機の「スケジュール」および「電話帳」のデータを、相互に同期させることができます。パソコンまたは本電話機のどちらかでデータの追加・変更・削除を行っても、同期を行えば、もう一方のデータも同様に更新されます。この同期の処理を「シンク」と呼びます。

この機能を使用するには、付属のCD-ROMからIntellisync for JRC (以下、「Intellisync」) をパソコンにインストールする必要があります。

お客様へのお知らせ、および使用許諾契約

■お客様へのお知らせ

以下の契約内容 (以下、「本使用許諾契約」といいます) を注意深くお読みください。同梱されているIntellisync Corporationのソフトウェアプログラム (以下、「本ソフトウェア」といいます。) をお客様のコンピュータシステムにインストールまたは使用することにより、お客様は自動的に本使用許諾契約に同意したものとします。本使用許諾契約を注意して読んだ後、お客様が、使用許諾契約の条項に同意されない場合は、速やかに本ソフトウェアをお客様のコンピュータシステムから削除してください。

■使用許諾

Intellisync Corporationは、お客様に対して、一時に1台のコンピュータシステムに対して、本ソフトウェアをインストールして使用することができる、非独占的権利を与えます。Intellisync Corporationは、本ソフトウェアの使用許諾は、お客様が本契約の条項を遵守されることを条件とします。

■著作権

本ソフトウェアは、合衆国著作権法、日本国著作権法、および国際条約規定により保護されています。本ソフトウェアについての知的財産権に対するいかなる権限もお客様に移転されるものではないことをご了解ください。さらに、本ソフトウェアについての権限および完全なる所有権は、Intellisync Corporationの独占的財産権として存続すること、および、本使用許諾契約に明示的に定められる場合を除き、お客様は本ソフトウェアについて、いかなる権利も取得するものではないことをご了解ください。本ソフトウェアのすべてのコピーは、本ソフトウェアの上部および内部に表示されるのと同じの所有権表示を含むことをご承諾ください。お客様は、本使用許諾契約に基づきお客様によって作成された本ソフトウェアのすべてのコピーについての正確な記録を保管しなければならないことに同意したものとみなします。

■使用上の禁止事項

事前にIntellisync Corporationの書面による許可を入手することなく、以下の行為を行うことはできません。(a) 本使用許諾契約に明示的に定められる場合を除き、本ソフトウェアもしくはこれに関する書面を使用、複製、修正、変更または譲渡すること、(b) 本ソフトウェアを翻案、逆アセンブル、逆コンパイル、プログラムの置き換えもしくはその他の方法により、リバースエンジニアリングすること、(c) 本ソフトウェアもしくはその書面をサブライセンスまたはリースすること、(d) 本ソフトウェアをレンタル、タイムシェアリングもしくはコンピュータサービス業務において使用すること。お客様が本使用許諾契約の条項に違反した場合は、Intellisync Corporationは、他のすべての権利を損なうことなく、本使用許諾契約を解除することができます。このような場合、お客様は、本ソフトウェアのすべてのコピーを破棄してください。

■限定保証

Intellisync Corporationは、本ソフトウェアが購入された日から 30 日の期間内において、本書（Intellisyncの使いかた）の記述に従って実質的に機能することを保証するものとします。ソフトウェアに関する黙示保証はこの 30 日間に限定されます。

■エンドユーザーへの補償

本ソフトウェアが上記の「限定保証」条項に適合しなかった場合の Intellisync Corporationの全責任とこれに対する唯一の救済は、Intellisync Corporationの裁量により、(a.) エラーを修正する、または (b.) エラーの解決法を見つける、のいずれかに限られます。ソフトウェアの欠陥が、事故、悪用、または誤用によるものである場合は、限定保証は無効となります。交換されたソフトウェアはご購入当初の限定保証期間中保証されます。

■免責条項

Intellisync Corporation は、「限定保証」条項で明記した保証以外には、本ソフトウェアに対するいかなる保証も致しません。Intellisync Corporationは、ソフトウェアに対し明示、黙示を問わず、商品適性、特定用途に対する適合性、および第三者による著作権などの権利の非侵害に関していかなる保証も行いません。管轄区域によっては、黙示保証や黙示保証の保証期間の除外、または偶発的損害の制限の除外を認めていないため、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合もあります。この保証は、お客様に対して特定の法律上の権利を与えるものです。また、管轄区域によっては、その他の権利が適用されることもあります。

■結果的損害に対する責任の排除

いかなる場合においても、Intellisync Corporationは、たとえIntellisync Corporationがそのような損害の発生の可能性について知っていた場合においても、本ソフトウェアの実行または使用から生じる結果的損害、特別損害、付随的損害またはその他のあらゆる種類の間接損害についての責任を負いません。

Copyright 1996-2005 Intellisync Corporation. All Rights Reserved.

Intellisync、Intellisyncのロゴは、米国Intellisync Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他記載されている社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

このソフトウェアは、アメリカ合衆国特許 5,392,390, 5,666,553, 5,684,990, 5,701,423, 5,943,676, 6,044,381, 6,141,664, 6,212,529, 6,330,568 および 6,405,218 で保護されています。その他の特許は申請中です。

Intellisyncでシンクできるデータについて

Intellisyncは、本電話機とパソコンにインストールされているOutlookを連携させるためのソフトウェアです。

Intellisyncを使うと、Outlookで管理している「予定表」および「連絡先」のデータと、本電話機の「スケジュール」および「電話帳」のデータを、相互にシンクさせることができます。

パソコンまたは本電話機のどちらかでデータの追加・変更・削除を行っても、シンクを行えば、もう一方のデータも同様に更新されます。

電話帳データの対応

本電話機の「電話帳」データと、Outlookの「連絡先」データは、1000件までシンクできます。シンクできる項目と内容は、次のとおりです。

本電話機での項目名	Outlookとのシンク	シンクできる内容
名前	○	全角 16 文字 (半角 32 文字) まで
フリガナ	○	半角 32 文字まで
グループ (10 種)	×	
電話番号 1 ~ 3	○	それぞれ 32 桁まで
電話番号種別アイコン	×	
メールアドレス 1 ~ 3	○	それぞれ半角 64 文字まで
アドレス種別アイコン	×	
メモ	○	全角 50 文字 (半角 100 文字) まで
画像	×	
短縮設定	×	
シークレット設定	○	
指定着信音 (電話・Eメール・ライトメール)	×	
指定着信イルミネーション (電話・Eメール・ライトメール)	×	

お知らせ

- Outlookの「連絡先」データで、姓、名、フリガナ、電話番号、またはメールアドレスがない「連絡先」データは、本電話機の「電話帳」データには登録されません。

■「名前」「フリガナ」の処理

本電話機の電話帳の「名前」は、Outlookの連絡先の「姓」と「名」にシンクしています。Outlookの「姓」と「名」が本電話機に転送された場合は、姓と名を「/」（半角）で区切った文字列が、本電話機の電話帳の「名前」に登録されます。

本電話機の「名前」がOutlookに転送された場合、姓と名が「/」で区切られていなければ、Outlookの「姓」として登録されます。姓と名が「/」で区切られていれば、それぞれOutlookの「姓」と「名」に登録されます。



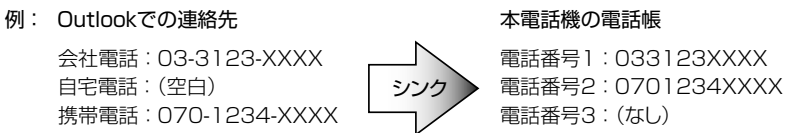
「フリガナ」も、「名前」と同様に「/」を区切りとして登録されます。

■「電話番号」「メールアドレス」の処理

Outlookの連絡先では、「電話番号」の登録欄が複数あり、一部の欄を未入力（空白）のままにしておくこともできます。しかし本電話機の電話帳では、「電話番号」は常に1から順に登録されます。そのため、シンクを繰り返すと登録欄がすれしまい、次回シンク時にデータが変更されたと通知され、データを更新してしまう場合があります。

Outlook側での電話番号入力時には、会社電話、自宅電話、携帯電話の順で電話番号を入力していただくことをお勧めいたします。

また、メールアドレスも電話番号と同様に、電子メール、電子メール2、電子メール3の順でメールアドレスを入力していただくことをお勧めいたします。



スケジュールデータの対応

本電話機の「スケジュール」データと、Outlookの「予定表」データは、1000件までシンクできます。シンクできる項目と内容は、次のとおりです。

本電話機での項目名	Outlookとのシンク	シンクできる内容
年月日	○	2000年1月1日～2037年12月31日
開始時刻	○	00:00～23:59
終了時刻	○	00:00～23:59
終日	○	

本電話機での項目名	Outlook とのシンク	シンクできる内容
場所	○	全角 27 文字 (半角 54 文字) まで
内容	○	全角 45 文字 (半角 90 文字) まで
休日設定	×	
通知設定	○	・通知する ・事前通知する: 5-99 分 ・通知しない
音設定	×	

■繰り返しデータの処理

Outlook で定期的な予定として登録されているデータは、本電話機ではそれぞれ 1 件ずつのスケジュールとして登録されます。

■日をまたぐ終日データの処理

Outlook で 2 日以上にまたがる終日のイベントとして登録されているデータは、本電話機では 1 日ずつの終日スケジュールに分割して登録されます。

■開始時刻と終了時刻が日付をまたぐデータの処理

Outlook で日付をまたぐ予定として登録されているデータは、本電話機では開始日の 23:59 までのスケジュールとして登録されます。

例: Outlookでの予定

開始時刻:2007/2/12 20:00
終了時刻:2007/2/13 2:00



本電話機でのスケジュール

開始時刻:2007/2/12 20:00
終了時刻:2007/2/12 23:59

■「内容」の処理

本電話機のスケジュールの「内容」は、Outlookの予定表の「件名」と「内容」にシンクしています。本電話機の「内容」がOutlookに転送された場合は、最初の改行までの文字列がOutlookの「件名」に、それ以降の文字列が「内容」として登録されます。Outlookの「件名」と「内容」が本電話機に転送された場合は、「件名+ (改行) +内容」の文字列が、本電話機のスケジュールの「内容」に登録されます。

お知らせ

- パソコン側の連絡先データや予定表データが 1000 件を超える場合、全件を本電話機に登録することはできません。電話帳のフィルタ設定やスケジュールの日付範囲設定を行って、シンク対象を 1000 件以内に絞り込む必要があります。
- パソコン側の連絡先や予定表のデータが、シンクできる範囲や文字数を超える場合、超えた部分のデータは本電話機に転送されません。

Intellisync をインストールする

インストール前の確認について

■必要なシステム環境

Intellisync をインストールしてご利用いただくには、次のシステム環境が必要です。

- ・ OS：日本語版 Windows XP Home Edition、Windows XP Professional、Windows 2000 Professional のいずれか
- ・ CPU：Pentium 以降
- ・ ハードディスク：60MB 以上の空き容量
- ・ メモリ：256MB 以上
- ・ ディスプレイ：VGA (640 × 480dot) 表示が可能なもの
- ・ CD-ROM ドライブ
- ・ USB ポート
- ・ すでにインストールされて設定されている日本語版 Microsoft Outlook 2000、2002、2003 のいずれか

■USB ドライバのインストール

Intellisync では、本電話機とパソコンを USB ケーブルで接続してデータを転送します。USB ケーブルで接続された本電話機を転送先として認識するためには、パソコンに必要なドライバがインストールされている必要があります。「USB ドライバのインストール」(P.10-4 ページ)

Intellisync のインストール手順に進む前に、本電話機がパソコンに接続されて Windows に認識されていることを確認しておきます。

■他の Intellisync ソフトウェアがすでにインストールされている場合

Intellisync for JRC と、電話機や PDA とのシンクを行う他の Intellisync ソフトウェアは、1 台のパソコン上で共存させることはできません。他の Intellisync ソフトウェアがすでにパソコンにインストールされている場合は、Intellisync for JRC をインストールする前に、アンインストールを行ってください。

Intellisync をインストールする

■インストールの準備

1 パソコンと本電話機を USB ケーブルで接続する

インストール操作の最後で本電話機との接続を設定するため、本電話機の電源を入れた状態で、付属の USB ケーブルを使ってあらかじめパソコンに接続しておきます。

2 Intellisync が入っているディスクを CD-ROM ドライブに挿入し、Intellisync for JRC のインストーラを起動する

Intellisync のインストール画面が表示されます。



お知らせ

- インストーラの起動方法については、Easy Setup Tool (CD-ROM) のマニュアルを参照してください。

■Intellisyncのインストール

Intellisyncのインストールは、画面の指示に従って行います。

1 インストール画面で、[次へ] をクリックする

2 ライセンス契約の内容を確認し、契約に同意する場合は「使用許諾契約の条項に同意します」を選択して、[次へ] をクリックする



3 「ユーザ名」と「所属」を入力し、[次へ] をクリックする



4 インストール先のフォルダを確認し、[次へ] をクリックする

インストール先のフォルダは、あらかじめC:\Program Files\Intellisync Corporation\Intellisync for JRCに設定されています。通常は特に変更する必要はないので、そのまま [次へ] をクリックします。

インストール先のフォルダを変更するときは、[変更] をクリックして、インストール先を指定します。



5 [インストール] をクリックする



6 本電話機の電源が入っており、USBケーブルでパソコンに接続されていることを確認して、[完了] をクリックする



■ 接続条件の設定

インストールが完了すると、Intellisyncが起動し、「Intellisync for JRC - 設定」画面が表示されます。(この画面の上に「ユーザー プロファイルの選択」画面が表示された場合は、このあとの「プロフィールの選択」(≒ 10-28 ページ)をご覧ください。)



1 「ポート」のプルダウンメニューから、本電話機の接続に使用しているポートを選択する

「ポート」のプルダウンメニューには、有効になっているCOMポートがすべて表示されます。本電話機の接続に使用しているポートが不明な場合は、このあとの「COMポートの確認方法」(≒ 同じページ内です。)をご覧ください。

2 「ユーザ名」と「パスワード」を入力する

初期値では、「ユーザ名」として「default」、「パスワード」として「0000」が自動的に設定されています。この初期値を変更する場合は、半角英数字16文字以内で入力してください。

本電話機の「接続設定」でも、ここで入力した「ユーザ名」と「パスワード」と同じものを設定する必要があります。

3 [OK] をクリックする

設定が完了すると「Intellisync for JRC - 設定」画面が閉じ、パソコン画面右下のシステムトレイにIntellisyncのインジケータが表示されます。

● COMポートの確認方法

本電話機との接続に使用されているCOMポートは、次の手順で確認できます。

1 [スタート]メニューから、[コントロールパネル]→[プリンターとその他のハードウェア]→[電話とモデムのオプション]を選択する

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

2 [モデム]タブをクリックする

本電話機との接続に割り当てられたCOMポートの番号が表示されます。

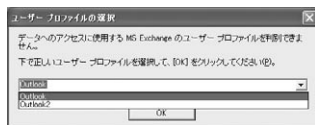


■ プロファイルの選択

Outlookに対して複数のプロファイルを設定している場合は、Intellisyncのインストールが完了すると、「ユーザー プロファイルの選択」画面が表示されます。シンクの対象とするデータにアクセスするためのプロファイルを選択してください。

Outlookに対して複数のプロファイルを設定していない場合、この画面は表示されません。

1 プロファイルを選択し、[OK]をクリックする



Intellisync の状態を管理する

Intellisync インジケータの表示

Intellisyncのインストールおよび設定を行うと、Intellisyncはパソコンに常駐します。パソコン画面右下のシステムトレイには、Intellisyncの状態に応じたインジケータが表示されます。

- ・ アクティブ：Intellisyncがパソコンに常駐していて、本電話機とのシンクに対応できる状態



- ・ 非アクティブ：Intellisyncはパソコンに常駐しているが、本電話機とのシンクには対応できない状態



お知らせ

- アクティブ状態のまま、本電話機をパソコンに接続し、放置しておくとうずかには本電話機の画面が点滅します。これは正常動作で故障ではありません。

■ インジケータによるメニューの選択

Intellisyncのインジケータをクリックすると、次の3つのメニューを選択できます。

- ・ アクティブ：Intellisyncを本電話機とのシンクに対応できる状態にします。
- ・ 設定：Intellisyncの設定画面を表示します。
- ・ 終了：Intellisyncを終了し、パソコンに常駐しない状態にします。終了すると、インジケータの表示が消えます。

Intellisync インジケータが非アクティブの場合

Intellisync のインジケータが非アクティブ表示の場合は、Intellisync の設定または本電話機との接続に問題があります。次の点を確認してください。



- ・ インジケータをクリックして、「アクティブ」がチェックされているかどうかを確認します。チェックされていない場合は、「アクティブ」を選択してください。
- ・ インジケータをクリックして「設定」を選択し、表示される画面で、Intellisync が正しく設定されているかどうかを確認します。
- ・ 本電話機が正しく接続されているかどうかを確認します。

Intellisync の再起動

Intellisync を終了した後、改めて起動してパソコンに常駐させるには、次の 2 つの方法があります。

- ・ Intellisync のインストール後にデスクトップに表示された、「Intellisync for JRC」アイコンをダブルクリックする



- ・ [スタート]メニューから、[プログラム]→[Intellisync Corporation]→[Intellisync for JRC]→[設定]を選択する

Intellisync が起動すると、まず接続の設定画面が表示されます。[OK] をクリックすると設定画面は閉じますが、Intellisync はパソコンに常駐します。

Outlook とのシンクを実行する

ここでは、Outlook と本電話機のデータをシンクするための基本的な操作について説明しています。詳細な説明については、Intellisync のヘルプをご覧ください。

本電話機の接続設定を行う

1 待ち受け画面で を押す

2 (接続設定) を押す

3 指紋認証または暗証番号認証を行う

「指紋や暗証番号で認証を行う」(※ 11-11 ページ)、「暗証番号で認証を行う」(※ 11-12 ページ) 認証されると、接続設定画面が表示されます。

4 (ユーザ ID) を押す

5 ユーザ ID を入力する

パソコンで Intellisync の設定時に入力した「ユーザ名」と同じものを、半角英数字 16 文字以内で入力します。

6 を押す

ユーザ ID が設定され、接続設定画面に戻ります。

7 (パスワード) を押す


8 パスワードを入力する

パソコンで Intellisync の設定時に入力した「パスワード」と同じものを、半角英数字 16 文字以内で入力します。

9 を押す

パスワードが設定され、接続設定画面に戻ります。設定したパスワードは、文字数に関わらず「*****」と表示されます。

お知らせ

- お買い上げ時には、「ユーザID」として「default」、「パスワード」として「0000」が設定されています。「ユーザID」と「パスワード」が未入力の状態では  を押し、お買い上げ時の設定がそのまま使用されます。

シンクを実行する


1 パソコンと本電話機を、USBケーブルで接続する

本電話機に付属のUSBケーブルを使って、電源の入った本電話機とパソコンを接続します。

2 待ち受け画面で を押す




3 (SYNC 接続) を押す


4 シンクを行うデータを確認し、 (SYNC) を押す

「」が表示されているのが、シンクが行われるデータです。

データのシンクが開始すると「通信中」→「保存中」の順にメッセージが表示され、シンクが終了すると「SYNCに成功しました」と表示されます。



▶ シンクを解除するには

 で「」が表示されているデータを選択して、 (解除) を押します。

「」が消え、そのデータのシンクは行われません。

5 パソコンと本電話機から、USBケーブルを抜く

お知らせ

- お買い上げ時には、電話帳データ、スケジュールデータ両方のシンクを行うよう設定されています。
- 待ち受け画面で  を約1秒以上押ししても、データのシンクが開始できません。
- 本電話機側で電話帳ロックが設定されているときは、シンクを行うことができません。電話帳ロックを解除してから行ってください。
- シンクするデータ内に認識できない文字が含まれていた場合は、表示可能な文字に置き換えられます。
- シンクを実行した場合、「ユーザID」「パスワード」が、パソコン側でIntellisyncの設定時に入力した「ユーザ名」「パスワード」と一致しないときは、「設定を確認してください」とメッセージが表示されます。
- Outlookの「連絡先」データで、姓、名、フリガナ、電話番号、またはメールアドレスがない「連絡先」データを作成し、シンクを実行すると、追加などのダイヤログを表示しますが、本電話機の「電話帳」データには登録されません。「連絡先」データの作成には、姓、名、フリガナ、電話番号、またはメールアドレスを入力していただくことをお勧めいたします。
- Outlook側での電話番号を入力するときには、会社電話、自宅電話、携帯電話の順で電話番号を入力していただくことをお勧めいたします。
- Outlook側でのメールアドレスを入力するときには、電子メール、電子メール2、電子メール3の順でメールアドレスを入力していただくことをお勧めいたします。
- シンク中は、 を押さないでください。
- シンク中は、パソコンと本電話機から、USBケーブルを抜かないでください。

■ シンク中のパソコン画面の表示

パソコンの画面では、シンク中に「シンク中」のメッセージが表示されます。終了するまでお待ちください。

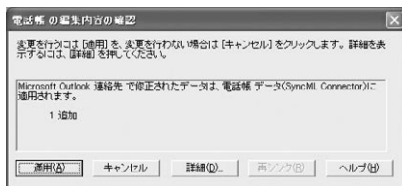


▶ Outlook 側のデータ件数が 1000 件を超えている場合

本電話機に登録できる電話帳やスケジュールは、それぞれ 1000 件までです。Intellisync はデータをシンクする際に、シンク後に本電話機に登録されることになるデータ件数をあらかじめ計算し、その件数が 1000 件を超えることが発見されると警告メッセージを表示します。この場合はシンクをいったんキャンセルし、電話帳のフィルタ設定やスケジュールの日付範囲設定を行ってシンク対象を 1000 件以内に絞り込んでから、再度シンクを行ってください。

▶ 変更データの確認

シンク中に、前回のシンク以降に追加・変更・削除されたデータを認識すると、確認画面が表示されます。



1 変更を実行する場合は、[適用] をクリックする

データの追加・変更・削除などが、シンクの相手側に適用されて、シンクが完了します。

▶ 変更を適用するデータを確認するには

[詳細] をクリックすると、シンクされるデータの詳細な内容を確認できます。
また、[再シンク] をクリックすると、シンクをもう一度やり直します。

お知らせ

- シンクするデータの範囲を細かく指定することもできます。詳細な説明については、Intellisync のヘルプをご覧ください。
- 同一データをシンクさせた場合、確認画面が表示されない場合があります。

■ 前回のシンク日の確認

前回、Intellisync によるシンクを行った日を確認することができます。

1 待ち受け画面で **Menu** **Sync** **7:30** を押す

2 **3:00** (前回 SYNC 日時) を押す

電話帳およびスケジュールについて、前回シンクを行った日とその結果が表示されます。

Intellisync を再設定する

Intellisyncのインストールを行うと、通常は、シンクのための基本的な設定も完了します。ここでは、インストール後にIntellisyncを再設定する方法について説明しています。必要に応じて参照してください。詳細な説明については、Intellisync のヘルプをご覧ください。

再設定を行うための準備

■ パソコンと本電話機の接続

再設定の前に、パソコンと本電話機をUSBケーブルで接続してください。接続していないとポートを指定できません。また、あらかじめUSBケーブルのドライバをパソコンにインストールしておく必要があります。「USBドライバのインストール」(※10-4ページ)

■ 設定画面の表示

Intellisyncの設定画面を表示するには、パソコン画面右下のIntellisyncのインジケータをクリックして、「設定」をクリックします。

【接続】タブでの設定

本電話機との接続に関する設定を行います。



▶ ポート

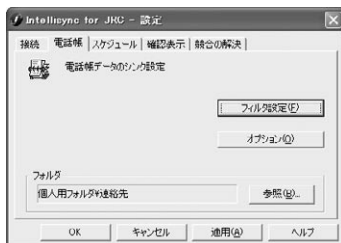
パソコン上で有効となっているCOMポートがリスト表示されるので、その中から本電話機の接続に使用するCOMポートを選択します。本電話機の接続に使用されるCOMポートの番号は、パソコンと本電話機を初めてUSBケーブルで接続した際にインストールされたUSBドライバにより決定されます。

▶ ユーザ名、パスワード

本電話機の「接続設定」で設定した「ユーザID」と「パスワード」を入力します。Intellisyncは、ここで設定されたユーザ名とパスワードの組み合わせを持つ電話機とのみシンクを行います。

【電話帳】タブでの設定

電話帳データのシンクに関する設定を行います。



▶ フィルタ設定

Outlook上の連絡先データのうち、ある条件に一致したデータだけをシンク対象とする場合に使用します。本電話機は電話帳データを1000件までしか登録できないため、Outlook上の連絡先データが1000件を超えている場合は、フィルタ設定を行ってシンク対象の件数を絞り込む必要があります。詳細な説明については、このあとの「フィルタの作成」をご覧ください。

▶ オプション

Outlookに複数のプロファイルが設定されている場合は、このボタンをクリックして、シンク対象とするプロファイルを選択します。インストールの際や、[スケジュール]タブの画面でプロファイルを選択している場合は、ここで再度選択する必要はありません。

▶ 参照

Intellisyncは、Outlook上の「連絡先」フォルダを自動的に探し出してシンク対象とします。シンク対象とするフォルダが別の場所にある場合は、このボタンをクリックしてフォルダを選択します。

■ フィルタの作成

[電話帳]タブの画面で[フィルタ設定]をクリックすると、「電話帳の詳細設定」画面が表示されます。ここでは、新しいフィルタを作成し、それを適用する方法について説明します。



1 [新規作成] をクリックする

2 フィルタ名を入力し、[OK]をクリックする

フィルタの条件を設定する画面が表示されます。



3 条件を設定する Outlook の連絡先のフィールドを選択し、演算子を選択して、値を入力する

[スケジュール] タブでの設定

スケジュールデータのシンクに関する設定を行います。

4 [リストに追加] をクリックする

フィルタの条件が登録されます。

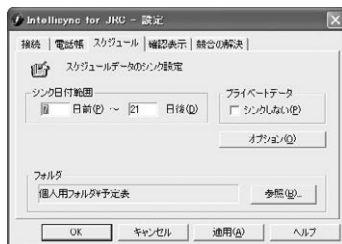
5 複数の条件を設定した場合は、[規則] タブをクリックして、規則を選択する

[最低一つの条件を満たす必要がある] を選択すると、複数の条件のいずれかを満たす連絡先がシンク対象となります。

6 [OK] をクリックする

7 「電話帳の詳細設定」画面で、新しく作成したフィルタをオンにして [OK] をクリックする

新しいフィルタが適用されます。



▶ シンク日付範囲

シンク対象となる日付の範囲を指定します。標準では「7日前」から「21日後」までがシンク対象となり、この範囲以外のスケジュールデータはシンクされません。

本電話機はスケジュールデータを1000件までしか登録できないため、Outlook上のスケジュールデータが1000件を超えている場合は、この日付範囲を設定してシンク対象の件数を絞り込む必要があります。

▶ プライベートデータ

Outlookで「プライベート」が設定されている予定をシンク対象から外す場合は、ここをオンにします。

▶ オプション

Outlookに複数のプロファイルが設定されている場合は、このボタンをクリックして、シンク対象とするプロファイルを選択します。インストールの際や、【電話帳】タブの画面でプロファイルを選択している場合は、ここで再度選択する必要はありません。

▶ 参照

Intellisyncは、Outlook上の「予定表」フォルダを自動的に探し出してシンク対象とします。シンク対象とするフォルダが別の場所にある場合は、このボタンをクリックしてフォルダを選択します。

【確認表示】タブでの設定

Intellisyncでは通常、シンクの際に追加・変更・削除する電話帳やスケジュールのレコードデータがあった場合、確認画面を表示します。

【確認表示】タブのオプションのチェックを外すと、確認画面が表示されなくなります。チェックを外さず、確認画面を表示させることをお勧めします。

【競合の解決】タブでの設定

シンクの際に、競合（本電話機とOutlookの双方で同じデータを修正したこと）が発見された場合の動作を設定します。



標準では「競合の発生を通知する」が選択されています。この場合、競合が発生するとメッセージが表示されるので、どのようにシンクするかを選択することができます。この標準設定を変更せず、そのままご使用されることをお勧めします。

パソコンからmicroSDカード内のデータを管理する (USBデータストレージ)

パソコンと本電話機をUSBケーブルで接続して、本電話機のmicroSDカードを、パソコンのドライブの1つ (USBデータストレージ) として認識させることができます。

この機能を使うと、パソコンに保存されている画像データや音声データをmicroSDカードにコピーする、microSDカード内のフォルダやデータを整理する、といった操作をパソコンから行うことができます。

USBデータストレージとして設定する

本電話機がUSBデータストレージとして設定されている間は、電話機としての機能は使用できません。また、圏外状態となるため電話の着信やメールの受信もできません。


1 待ち受け画面で を押す

「パソコン等と接続中は圏外状態となります 開始しますか?」と表示されます。

2 で「Yes」を選択し、 を押す

3 パソコンと本電話機を、USBケーブルで接続する

microSDカードがパソコンのUSBデータストレージとして設定され、「USBデータストレージ ON」と表示されます。

USBデータストレージとして設定されている間、画面には「通信中」と表示され、USB接続中を示す「」が表示されます。

お知らせ

- microSDカードデータ内の物理フォルダ名と、本電話機で利用する名称との関連は次のとおりです。「データフォルダについて」(※P.13-53ページ)

フォルダ名	本電話機での名称
DCIM	デジカメデータ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$CAMERA	カメラデータ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$PICTURE	画像データ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$SOUND	サウンドデータ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$RECORD/\$IC	ICレコーダ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$RECORD/\$MESSAGE	留守録音
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$RECORD/\$PHONE	通話録音
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$OTHER	その他データ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$CODELOG	2次元コードログ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$BACK_UP/\$MAIL_BOX	メールBOXバックアップ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$BACK_UP/\$PHONE_BOOK	電話帳バックアップ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$BACK_UP/\$SCHEDULE	スケジュールバックアップ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$BACK_UP/\$BOOKMARK	ブックマークバックアップ
PRIVATE/DATA_FOLDER/PC_INOUT	PCデータ
PRIVATE/DATA_FOLDER/\$USER_DATA	ユーザデータ
SD_BIND/SVC00001/\$SECR	シークレットデータ
SD_BIND/SVC00001/\$CONT	著作権ありデータ

USBデータストレージの設定を解除する

1 パソコン側からハードウェアの取り外しを行う

各OSによって異なります。

▶ Windows XPの場合

パソコン画面右下に表示される「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをクリックし、USB大容量記録装置デバイスを停止します。

▶ Windows 2000の場合

パソコン画面右下に表示される「ハードウェアの取り外しまたは取り出し」アイコンをクリックし、USB大容量記録装置デバイスを停止します。


▶ Mac OS 9の場合

デスクトップ上に表示されているディスク(USB装置)をゴミ箱へ移動します。(選択してファイルメニューから「片付ける」でも可能です。)


▶ Mac OS Xの場合



デスクトップ上に表示されているボリューム(USB装置)をゴミ箱へ移動します。(選択してファイルメニューから「取り出し」でも可能です。)

2 パソコンと本電話機から、USBケーブルを抜く

画面にはアンテナが表示され、「」が消えます。

下記手順でも解除できます。

① USBデータストレージの通信中画面で、 (中断) を押す

②  で「Yes」を選択し、 を押す

USBデータストレージの設定が解除され、「USBデータストレージ OFF」と表示されます。

お知らせ

- パソコン側からハードウェアの取り外しを行わずに、本電話機のUSBデータストレージを終了してしまうと、それまでmicroSDカードとやりとりを行ったデータが保証されませんので、ご注意ください。

